

当社のコーポレート・ガバナンスの状況は以下のとおりです。

／コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及び資本構成、企業属性その他の基本情報

1. 基本的な考え方

当社は、取引先・株主・従業員・社会という全てのステークホルダーに支えられた存在であるとの基本認識のもと、上場企業としての社会的使命と責任を果たすため、経営の行動・運営方法が公正・公平かつ透明であり、法令を遵守するものでなければならないと考えております。

【コーポレートガバナンス・コードの各原則を実施しない理由】 更新

[補充原則4-8-1、補充原則4-8-2]

独立社外取締役は、定期的に代表取締役及び独立役員同士のミーティングを行うなど適宜情報交換を図ることとしております。

[補充原則4-10-1]

取締役の指名及び報酬については独立社外取締役の助言を経て決定することとしております。

【コーポレートガバナンス・コードの各原則に基づく開示】 更新

[原則1-4 政策保有株式]

(1)上場株式の政策保有に関する方針

事業運営上の必要性及び保有リスク等を総合的に勘案して保有意義の有無を定期的に判断し、保有意義のない株式は原則保有しないこととしております。

(2)保有株式の議決権行使基準

企業価値の向上の観点から、保有先企業の議案の合理性を総合的に判断の上、議決権を行使しております。

[原則1-7 関連当事者間の取引]

取締役の競業取引及び利益相反取引については、取締役会規則において取締役会の決議事項としております。

また、取締役並びにその近親者及び関連当事者と会社との取引の有無については、毎年定期的に調査を実施しております。

[原則3-1 情報開示の充実]

(1)会社の目指すところ（経営理念等）や経営戦略、経営計画

当社グループは、お客様の立場に立って、よきものづくりに支えられた健全で活力ある社会の発展に貢献することを使命とし、この使命を達成するために、グループの一人ひとりが絶えず品質の向上を図り、お客様に最高のソリューションを提供することで産業界の発展に寄与していただくことを経営理念としています。なお、詳細については、当社ウェブサイトをご参照ください。

「カナデングループ理念」

<https://www.kanaden.co.jp/corporate/philosophy/>

「長期経営構想」

<https://www.kanaden.co.jp/ir/message/>

「中期経営計画」

<https://www.kanaden.co.jp/ir/medium-term/>

(2)コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方と基本方針

当社は、取引先・株主・従業員・社会という全てのステークホルダーに支えられた存在であるとの基本認識のもと、上場企業の社会的使命と責任を果たすため、経営の行動・運営方法が公正・公平かつ透明であり、法令を遵守するものでなければならないと考えております。

(3)役員報酬等の決定に関する方針

取締役の報酬は、定額報酬（基本報酬）、業績連動報酬（賞与）、中長期的な業績連動報酬（株式報酬）からなり、定額報酬は役職及び社外取締役の別に定めており、当社役員に求められる能力及び責任に見合った報酬水準を設定しております。業績連動報酬は、役職別の定額に経常利益に連動した一定の基準に基づいた業績評価を行って算定しております。中長期的な業績連動報酬は中期経営計画の達成の有無に応じて株式報酬が得られるものとしております。監査役及び社外取締役に対する業績連動報酬は支給していません。

(4)取締役・監査役等の指名・選任方針と手続

経営の監督を担うにふさわしい人格、見識及び業務・専門職経験を備えているかを総合的に検討し、十分にその能力がある者を取締役・監査役候補者として指名しております。

また、取締役会において、業務執行部門の統括責任者にふさわしい人格、見識及び業務・専門職経験を備えているかを総合的に検討し、十分にその能力がある者を執行役員に選任しております。

(5)取締役・監査役の指名・選任理由

取締役並びに監査役の経歴及び選任理由等については、「株主総会招集ご通知」で開示をしています。

[補充原則4-1-1 取締役会の決定事項等]

取締役会は、法令、定款に定められるもののほか、重要な業務執行の意思決定等を取締役会規則に基づき行っております。なお、当社は、執行役員制度を導入しており、業務執行の統括責任者として職務権限規程に基づき業務執行を委嘱しております。また、取締役及び執行役員で構成する執行役員会を毎月一回定期的に開催し、業務執行内容の報告を求めるとともに、経営の意思決定が適確に業務執行部門に伝わる仕組みとしております。

[原則4-8 独立社外取締役の有効な活用]

当社の取締役会は8名で構成し、その内独立社外取締役は2名としております。

[原則4-9 独立社外取締役の独立性判断基準等]

社外取締役には、その経験に裏付けされた高次の視点から、当社経営の監督を行うことを期待しており、その役割を担うにふさわしい人格、見識及び業務・専門職経験を備えているかを総合的に検討して、十分にその能力があり、東京証券取引所の定めに基づく独立役員の要件を満たすなど、一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立性のある者を、社外取締役候補者に指名することを基本方針としております。

[補充原則4-11-1 取締役会の全体としての知識・経験・能力のバランス、多様性及び規模に関する考え方]

当社は、経営における意思決定の迅速かつ機動的な実行のため、「意思決定・監督」と「執行」を分離する執行役員制度を導入しております。取締役会は、迅速かつ適確な経営判断がなされるよう社外取締役2名を含む8名で構成しております。取締役候補者は、原則として執行役員の中から取締役としてふさわしい人物を会社推薦することとしております。

[補充原則4-11-2 取締役及び執行役の他の上場会社の役員兼任状況]

取締役の重要な兼職状況については、「株主総会招集ご通知」等で毎年開示しております。

[補充原則4-11-3 取締役会の実効性についての分析・評価]

取締役会議長は、取締役会の実効性に関する書面調査を各取締役に行った上、取締役会にて協議・検討し、その結果をカナデンレポート（年次報告書）において開示することとしております。

[補充原則4-14-2 取締役及び執行役に対するトレーニングの方針]

取締役候補者である執行役員には、経営幹部として求められる役割・責務や対応等に関する研修を実施しております。

また、取締役就任後も取締役としての役割・責務が適切に果たせるよう、コンプライアンス教育や取締役向け研修を実施しております。

[原則5-1 株主との建設的な対話に関する方針]

当社では、株主・投資家等に対して、当社の財務内容や事業活動状況等の経営情報を適確に開示するとともに、会社の経営理念・経営方針を明確に伝え、それらに対する意見・批判を真摯に受け止めることを基本方針としております。

この方針のもと、当社では、株主との対話を担当する部署を総務部としております。

また、当社では、個別訪問等による株主・投資家との対話に加え、株主アンケートを実施し、広く株主のご意見・ご提案をお聞きし、事業活動並びにIR活動に反映させております。

なお、株主・投資家との対話並びに情報開示においては、インサイダー情報の管理を徹底しております。

2. 資本構成

外国人株式保有比率

10%以上20%未満

[大株主の状況] 更新

氏名又は名称	所有株式数 (株)	割合 (%)
三菱電機株式会社	7,505,000	25.32
カナデン取引先持株会	2,856,500	9.64
日本トラスト・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,155,500	3.90
カナデン従業員持株会	868,541	2.93
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	761,200	2.57
株式会社三菱東京UFJ銀行	751,872	2.54
JP MORGAN CHASE BANK 380621	676,500	2.28
三菱倉庫株式会社	656,329	2.21
明治安田生命保険相互会社	600,922	2.03
三菱UFJ信託銀行株式会社	559,000	1.89

支配株主（親会社を除く）の有無

— — —

親会社の有無

なし

補足説明 更新

平成30年4月6日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社が平成30年3月30日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として平成30年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の変更報告書の内容は次のとおりであります。

大量保有者 シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社

保有株券等の数 株式 1,515,500株

株券等保有割合 5.00%

3. 企業属性

上場取引所及び市場区分	東京 第一部
決算期	3 月
業種	卸売業
直前事業年度末における (連結) 従業員数	500人以上1000人未満
直前事業年度における (連結) 売上高	1000億円以上1兆円未満
直前事業年度末における連結子会社数	10社以上50社未満

4. 支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針

―――

5. その他コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与えうる特別な事情

該当事項ありません

// 経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の状況

1. 機関構成・組織運営等に係る事項

組織形態	監査役設置会社
------	---------

[取締役関係]

定款上の取締役の員数	9名
定款上の取締役の任期	1年
取締役会の議長	社長
取締役の人数	8名
社外取締役の選任状況	選任している
社外取締役の人数	2名
社外取締役のうち独立役員に指定されている人数	2名

会社との関係(1)

氏名	属性	会社との関係(※)										
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k
神 毅	弁護士								○			
永島 義郎	その他											

※ 会社との関係についての選択項目

※ 本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「○」、「過去」に該当している場合は「△」

※ 近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「●」、「過去」に該当している場合は「▲」

- a 上場会社又はその子会社の業務執行者
- b 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
- c 上場会社の兄弟会社の業務執行者
- d 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
- e 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
- f 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
- g 上場会社の主要株主(当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者)
- h 上場会社の取引先(d、e及びfのいずれにも該当しないもの)の業務執行者(本人のみ)
- i 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者(本人のみ)
- j 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者(本人のみ)
- k その他

会社との関係(2) 更新

氏名	独立役員	適合項目に関する補足説明	選任の理由
神 毅	○	神毅氏は、当社と顧問弁護士契約を締結しておりますが、その報酬額は僅少であり、同氏の独立性に影響を及ぼす特別の関係はありません。	神毅氏は、弁護士として企業法務に精通されており、上場企業の社外取締役並びに社外監査役の経験を有されていることから、社外取締役として選任しております。 なお、同氏は独立役員の要件を満たし、一般株主と利益相反のおそれがないと判断しております。
永島 義郎	○	---	永島義郎氏は、会社経営者としての経験に加え、上場企業の監査役等の経験を有されていることから、社外取締役として選任しております。 なお、同氏は独立役員の要件を満たし、一般株主と利益相反のおそれがないと判断しております。

指名委員会又は報酬委員会に相当する 任意の委員会の有無	なし
--------------------------------	----

【監査役関係】

監査役会の設置の有無	設置している
定款上の監査役員数	4名
監査役の人数	4名

監査役、会計監査人、内部監査部門の連携状況

監査役会と会計監査人とは、定期的な意見交換を行っております。
 内部監査部門は監査役に対し、当社及び当社グループに重要な影響を及ぼす事項、監査の状況、その他コンプライアンス上重要な事項等を報告するものとしております。

社外監査役の選任状況	選任している
社外監査役の人数	3名
社外監査役のうち独立役員に指定されている人数	2名

会社との関係(1)

氏名	属性	会社との関係(※)												
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m
土井 啓	他の会社の出身者							○		○				
野見山 豊	他の会社の出身者													
一法師 信武	公認会計士													

- ※ 会社との関係についての選択項目
 ※ 本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「○」、「過去」に該当している場合は「△」
 ※ 近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「●」、「過去」に該当している場合は「▲」
- a 上場会社又はその子会社の業務執行者
 b 上場会社又はその子会社の非業務執行取締役又は会計参与
 c 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
 d 上場会社の親会社の監査役
 e 上場会社の兄弟会社の業務執行者
 f 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
 g 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
 h 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
 i 上場会社の主要株主（当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者）
 j 上場会社の取引先（f、g及びhのいずれにも該当しないもの）の業務執行者（本人のみ）
 k 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者（本人のみ）
 l 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者（本人のみ）
 m その他

会社との関係(2) 更新

氏名	独立 役員	適合項目に関する補足説明	選任の理由
土井 啓		----	土井啓氏は、三菱電機株式会社営業本部事業企画部代理店グループマネージャーの職にあり、電機業界における豊富な営業経験等を有されていることから、社外監査役として選任しております。 なお、当社は三菱電機株式会社と取引関係にあり、同社は当社の株式（自己株式を控除した出資比率25.32%）を保有しております。

野見山 豊	○	----	野見山豊氏は、株式会社寺岡製作所の常勤監査役であり、同社管理部門の要職を経て同社取締役を歴任するなど、経営に対し高い見識を有されていることから、社外監査役として選任しております。 なお、同氏は独立役員の要件を満たし、一般株主と利益相反のおそれがないと判断しております。
一法師 信武	○	----	一法師信武氏は、公認会計士や税理士資格を有し、会計分野に関する研究及び教授等を通じ、財務・会計に関する相当な知見を有されております。また、上場企業の監査役を経験されていることから、社外監査役として選任しております。 なお、同氏は独立役員の要件を満たし、一般株主と利益相反のおそれがないと判断しております。

[独立役員関係]

独立役員の人数	4 名
---------	-----

その他独立役員に関する事項

当社は、独立役員の資格を満たす者を全て独立役員に指定しております。

[インセンティブ関係]

取締役へのインセンティブ付与に関する施策の実施状況	業績連動型報酬制度の導入
---------------------------	--------------

該当項目に関する補足説明 更新

取締役（社外取締役を除く）の賞与は、業績連動を基本とした内規により決定しています。
また、中長期的な企業価値の向上に資するインセンティブとして譲渡制限付株式報酬を導入しております。

ストックオプションの付与対象者

該当項目に関する補足説明

[取締役報酬関係]

（個別の取締役報酬の）開示状況	個別報酬の開示はしていない
-----------------	---------------

該当項目に関する補足説明 更新

取締役及び監査役に支払った報酬等の総額

	支給人員	支給額
取締役（うち社外取締役）	8 名(2 名)	157 百万円（10百万円）
監査役（うち社外監査役）	4 名(2 名)	19 百万円（6 百万円）
合計（うち社外役員）	12 名(4 名)	176 百万円（16 百万円）

(注) 1 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与及び賞与は含まれません。

2 上記の支給額には、前事業年度に役員賞与として費用処理した92百万円を含んでおります。

報酬の額又はその算定方法の決定方針
の有無 更新

あり

報酬の額又はその算定方法の決定方針の開示内容

取締役及び監査役の報酬等については、株主総会の決議により、取締役及び監査役それぞれの報酬限度額を決定しております。
取締役の報酬等は、定額報酬（基本報酬）と業績連動報酬（賞与）、中長期的な業績連動報酬（株式報酬）からなり、定額報酬は役職及び社外取締役の別に定めており、当社取締役求められる能力及び責任に見合った報酬水準を設定しております。業績連動報酬は、役職別の定額に、経常利益に連動した一定の基準に基づいた業績評価を行って算定しております。中長期的な業績連動報酬は中期経営計画の達成状況に応じて株式報酬が得られるものとしております。社外取締役に対する業績連動報酬は支給しておりません。
監査役の定額報酬（基本報酬）は、監査役会で決定した基準に従って算定しており、業績連動報酬（賞与）等は支給しておりません。

【社外取締役（社外監査役）のサポート体制】

社外取締役及び社外監査役の補助及び情報伝達はその必要の都度、又は、社外取締役及び社外監査役の要請により本社総務部門が担っております。

【代表取締役社長等を退任した者の状況】

元代表取締役社長等である相談役・顧問等の氏名等 更新

氏名	役職・地位	業務内容	勤務形態・条件 (常勤・非常勤、報酬有無等)	社長等退任日	任期
佐田 憲彦	相談役	当社経営に携ってきた経験・知見から、経営その他の事項に関し相談に応じて助言を行っております。	【勤務形態】 非常勤 【報酬有無】 有	2015/6/26	10年

元代表取締役社長等である相談役・顧問等の合計人数 更新 1 名

その他の事項

2. 業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項（現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要） 更新

取締役会は、迅速かつ適確な経営判断がなされるよう社外取締役2名を含む8名で構成しており、2ヵ月毎の定例取締役会の他、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。

また、業務執行取締役で構成する経営会議を取締役会の補助機関として設置し、原則毎週一回、経営に関する重要事項について審議・意思決定を行っております。

さらに、取締役及び執行役員で構成する執行役員会を毎月一回定期的に開催し、業務執行内容の報告を求めるとともに、経営の意思決定が適確に業務執行部門に伝わる仕組みとしております。

当社は、内部監査部門として監査部を設置し、監査部長を含む6名体制で業務執行から独立した立場で各事業部門の事業運営活動が法令、定款、社内規程並びに会社の経営方針や事業計画に沿って行われているかを検証し、各事業部門に具体的な助言・勧告を行うことにより、会社の健全性の保持に努めております。内部監査は年間計画に基づき実施され、その結果は代表取締役、監査役に報告され、実施状況・結果を経営者が把握するとともに、対象部門の執行役員がフォローアップを実施しております。

監査役会は、社外監査役3名を含む4名で構成され、監査役会が定めた監査の方針等に従い、取締役会・執行役員会その他重要な会議に出席する他、取締役等からその職務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するなどの監査を実施しております。また、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査し、必要に応じて子会社から営業の報告を求めるなどの監査も実施しております。

会計監査人は、有限責任監査法人トーマツを選任しておりますが、同監査法人及び当社会計監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社の間には、特別な利害関係はなく、また、同監査法人は自主的に業務執行社員について、当社の会計監査に一定期間を超えて関与することのないよう措置をとっております。当社は同監査法人との間で会社法監査と金融商品取引法監査について監査契約を締結し、それに基づき報酬を支払っております。

3. 現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由

当社は、監査役制度を採用しております。また、執行役員制度の採用により、経営と執行を分離することで取締役会は意思決定の迅速化と経営の効率性を高めるものとしております。なお、この執行役員制度は株主の信任を得て、定款においても規定しているものであります。

さらに、社外取締役2名と社外監査役3名を招聘することにより、経営の透明性と公正さを確保しております。

このように業務執行、監査・監督等の区分を明確にし、統制を図ることにより当社の企業統治体制は十分有効に機能しており、現時点において当社に最も適した仕組みであると判断しております。

株主その他の利害関係者に関する施策の実施状況

1. 株主総会の活性化及び議決権行使の円滑化に向けての取組み状況 更新

	補足説明
集中日を回避した株主総会の設定	集中日を回避した平日の午前中に開催しております。
電磁的方法による議決権の行使	平成30年6月開催の定時株主総会から導入しております。
議決権電子行使プラットフォームへの参加 その他機関投資家の議決権行使環境 向上に向けた取組み	平成30年6月開催の定時株主総会から参加しております。
招集通知(要約)の英文での提供	「株主総会招集ご通知」の要約を英訳し、東京証券取引所及び当社のウェブサイトに掲載しております。

2. IRに関する活動状況 更新

	補足説明	代表者 自身による説明の有無
アナリスト・機関投資家向けに定期的説明会を開催	平成30年5月から決算説明会を開催しております。 今後は、本決算及び第2四半期(中間)決算説明会を開催します。	あり
IR資料のホームページ掲載	決算短信等の開示資料を掲載しております。 https://www.kanaden.co.jp/ir/library/settlement/	
IRに関する部署(担当者)の設置	総務部	
その他	年1回、カナデンレポート(年次報告書)に株主アンケートを同封し、株主の皆様のご意見をお聞かせいただいております。	

3. ステークホルダーの立場の尊重に係る取組み状況

	補足説明
社内規程等によりステークホルダーの立場の尊重について規定	当社は、グループ理念、長期経営構想等において、ステークホルダーの尊重に立脚した考えを十分に反映し規定しております。
環境保全活動、CSR活動等の実施	当社は、グループ理念で「環境経営」を重要課題の一つとしており、クリーンな地球環境を次の世代に引き継いでいくことが私たちの使命であると考え、カナデングループ環境方針のもと、地球環境の保全と調和を目指しております。 事業活動においては、お客様に最適なソリューションを提案することにより、新たな環境ビジネスを創出していきます。 一方、社会貢献活動の一環として森林保全活動を推進し、2010年より、東京都下で「企業の森」活動を行っております。2012年からは名古屋市において伊勢湾に面した藤前干潟を守る活動にも支援と参加をさせていただいております。さらに、2017年から東京都の環境保全活動(東京グリーンシップ・アクション)に参加し、横沢入の里山保全活動に参加をさせていただいております。 また、当社グループの社員一人ひとりが仕事においてのみならず、家庭においても身近な環境を意識し行動できるよう、“わが家の取り組み-私たちのチャレンジ宣言”を奨励し、環境保全に取り組んでおります。

ステークホルダーに対する情報提供に係る方針等の策定	当社は、グループ理念に「公正正大な経営」を掲げ、高い倫理観を持ち、健全で誠実な事業活動によって、全てのステークホルダーの期待と信頼に応えることとしております。 この方針のもと、当社グループは、広く社会とのコミュニケーションを心がけ、企業情報の適時、適切な開示を行っております。 また、当社グループをより深くご理解いただくために、年1回当社グループの事業活動を取りまとめたカナデンレポート（年次報告書）を発刊しております。
その他	取締役・監査役・執行役員の構成について 女性の人数 0人

1. 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況 更新

業務の適正を確保するための体制に関する基本方針

1. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- (1)当社は、役員及び従業員が法令を遵守し社会規範に則った事業活動を行うために企業倫理ガイドラインを定め、あらゆる機会を通じ教育を行う。
- (2)当社は、代表取締役を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置し、役員及び従業員が高い倫理観に基づいた行動をするよう、コンプライアンス推進のための取り組みを協議・実行する。
- (3)当社は、反社会的勢力及び団体に対し、企業倫理ガイドラインをもって関係拒絶の姿勢を明確にし、これを実行する。
- (4)当社は、役職者が法令及び定款に適合した職務執行をすることを確保するために職務権限規程を定め、各職位に対する責任と権限を明確にする。
- (5)当社は、本社総務部門、人事部門、法務部門並びに顧問弁護士を窓口とした企業倫理ホットラインを設け、法令・定款等の違反行為を未然に防止するとともに、違反行為が発生した場合には、迅速かつ適切な是正措置を講ずる。
- (6)当社は、稟議規程を定め、職務権限規程に則った責任と権限の明確化を促し、確認を保証し、記録を行い、その保存及び管理を通じて業務の適正を確保する。
- (7)当社は、代表取締役の指示のもと、当社グループ全体の内部統制及び各業務プロセスの統制活動を強化し、財務報告に係る内部統制の適切かつ適正な運用を行う。また、その仕組みが適正に機能することを継続的に評価し、必要な是正を行う。

2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- (1)当社は、取締役会規則並びに経営会議規程の定めに基づき取締役会議事録並びに経営会議議事録を本社総務部門において10年間保管する。
- (2)本社総務部門は、取締役または監査役が取締役会議事録もしくは経営会議議事録の開覧を要請したときは、速やかにこれを開覧に供せねばならない。
- 3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制**
 - (1)当社及び当社グループに及ぶ総合的なリスクの監視並びに対応は本社総務部門が担い、財物リスク、法務リスク、環境リスク、労務リスク、情報セキュリティ、取引信用リスク等、各部門所管業務に付随するリスクの管理は当該部門が行う。
 - (2)当社及び当社グループが危機的な状況に置かれた際の基本対応を危機管理規則並びに災害対策規則として定める。

4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (1)当社は、当社グループの経営理念及び経営方針を定め、これらを具現化するために中期経営計画を策定する。
- (2)当社は、経営の意思決定の迅速化と事業活動の機動性を確保するために執行役員制度を制定する。
- (3)取締役会は、執行役員の選任を行うとともに執行役員規定及び執行役員会規定を定め、執行役員の業務執行を監督する。

5. 当社並びに当社関係会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- 当社は、関係会社が業務の適正を確保するために関係会社管理規定を定め、同規定に基づき事業推進部門が関係会社を所管する。
また、当社は、当社役員または従業員に関係会社の取締役または監査役を兼務させ、当該兼務者をして関係会社の取締役の職務執行状況を報告させる。
- (1)事業推進部門は、職務権限規程に則り関係会社に対し企業統治等、業務の適正を確保するための総合的な助言・指導を行う。
 - (2)監査部門は、関係会社に対し定期的な業務監査を行う。
 - (3)法務部門並びに本社総務部門は、関係会社に対し法令遵守等の助言・指導を行う。
 - (4)輸出管理部門は、関係会社に対し安全保障輸出管理の助言・指導を行う。
 - (5)ISO管理部門は、関係会社に対し環境保全・品質管理に関する指導・審査を行う。
 - (6)人事部門は、関係会社に対し労務管理の助言・指導を行う。
 - (7)経理部門並びに財務部門は、関係会社に対し財務・会計に関する助言・指導を行う。

6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項

- (1)当社は、監査役会と協議のうえ監査役の職務を補助すべき使用人を設置しない。但し、監査役から特段の求めがあったときは、臨時にこれを設置する。
- (2)臨時に監査役の補助をする者は、管理部門に属する非管理職者とし、監査役の補助に従事するときは監査役以外からの指揮命令を受けない。
- (3)臨時に監査役の補助をする者の補助に従事した期間に係る人事考課並びに人事異動は監査役会に意見を求める。

7. 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制並びにその他の監査役への報告に関する体制

- (1)取締役及び従業員は、監査役会に対し法定事項に加え当社及び当社グループに重要な影響を及ぼす事項、会計監査人及び内部監査人による監査の状況、その他コンプライアンス上重要な事項等を報告するものとし、報告したことを理由に不利益な取り扱いを受けることはない。
- (2)当社は、企業倫理ホットラインの運用により、法令・定款等に違反する重大な事実、その他コンプライアンス上重要な事項等について、知り得たときは監査役へ適切な報告をする。

8. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- (1)監査役会と代表取締役との間で、定期的に意見交換会を開催する。
- (2)当社は、監査役がその職務の執行について生ずる費用の前払いまたは支出した費用の償還、負担した債務の弁済を請求したときは、その費用等が監査役の職務の執行に必要なものと認められた場合を除き、これに応じる。

参考資料「模式図」：巻末「添付資料」をご覧ください。

2. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

当社は、反社会的勢力排除に向け、企業倫理ガイドラインに次のように定めております。

- (1) 違法行為や反社会的行為に関わらないよう、基本的な法律知識、社会常識と正義感を持ち、常に良識ある行動に努めます。
- (2) 反社会的勢力には毅然と対応し、一切関係を持ちません。また、反社会的勢力から不当な要求を受けた場合、毅然とした態度で接し、金銭などを渡すことで解決を図ったりしません。
- (3) 会社または自らの利益を得るために反社会的勢力を利用しません。
- (4) 反社会的勢力及び反社会的勢力と関係ある取引先とはいかなる取引も行いません。

1. 買収防衛策の導入の有無

買収防衛策の導入の有無

なし

該当項目に関する補足説明

2. その他コーポレート・ガバナンス体制等に関する事項 更新

当社は、適時開示体制について次のとおり定めております。

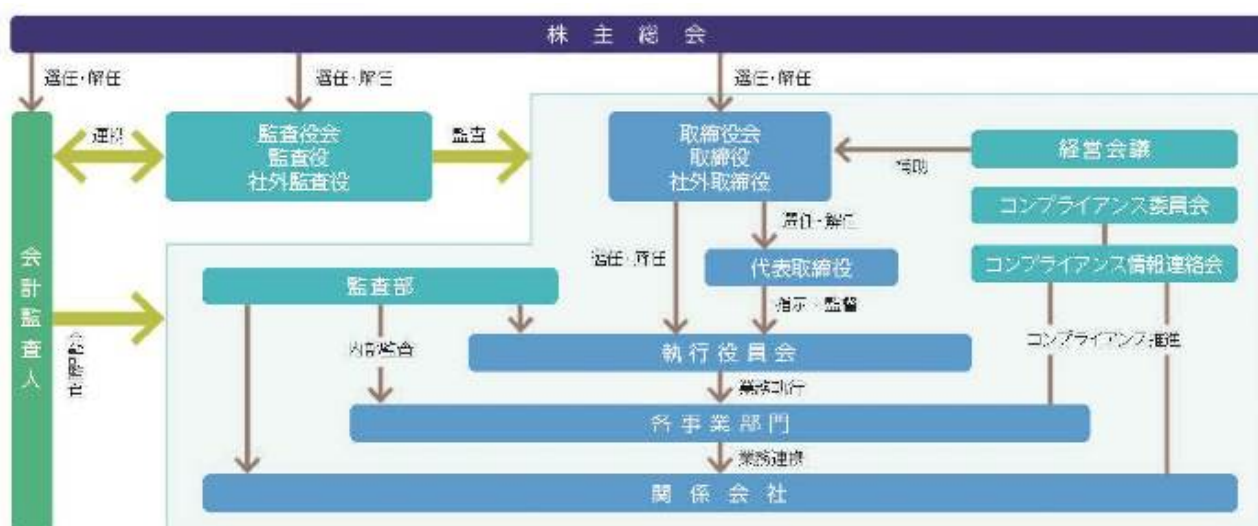
[決定事実・決算情報の開示に係る社内体制]

・取締役会決議後、代表取締役が適時開示規則に則り速やかに情報開示。

[発生事実の開示に係る社内体制]

・事実発生後、代表取締役が適時開示規則に則り速やかに情報開示。

参考資料「模式図」：巻末「添付資料」をご覧ください。



【決定事実・決算情報の開示に係る社内体制】

- ・取締役会決議後、代表取締役が適時開示規則に則り速やかに情報開示。

【発生事実の開示に係る社内体制】

- ・事実発生後、代表取締役が適時開示規則に則り速やかに情報開示。

